

「母親の『子育て日記』分析による子育てモデル作成の試み」

國枝俊弘

((株)シタシオンジャパン)

相馬淳子

((財)ソニー教育財団 幼児開発センター)

key words: : 子育て、子育てモデル、乳幼児

【研究の目的】

「母親の状態」「母親の育児行動」「父親の態度」など個々の要因や、相互の関連性についての研究は多く見られるものの、統計的手法による検証は十分とは言えない。もしこれら要因の関連性を包括する因果モデルが構築されれば、親子関係の問題に対し、より根元的な解決策を示唆することが期待できる。そこで本研究では、日記形式で収集した、日々の夫婦関係、親子関係のデータ(生後1ヶ月~24ヶ月)を元に、要因間の関連性を示す“子育てモデル”を構築することを目的とする。

本データは(財)ソニー教育財団 幼児開発センターの研究成果の一部を報告するものである。

【方法】

調査対象者: 都内在住の生後1ヶ月の第一子を持つ夫婦16組(調査開始時)

調査時期: 1999年より実施。現在も調査を継続中

調査方法: 母親が評価者となり、調査開始時より、その日の行動、状態、出来事などを、日記形式に用意されたチェック項目について毎日評価していく

評価項目: 「母親の状態」「母親の育児行動」「父親の態度」を視点に作成された22項目

分析対象データ: 生後1ヶ月~24ヶ月(16名×24ヶ月、延べ評価日数10734日)

【結果と考察】

分析の手順

分析は、“評価項目の構造化”“モデルの作成”2ステップに分けられる。評価項目の構造化については、評価項目の因子分析を行い、評価項目の構造化を試みた。結果「1.母親の育児行動」「2.父親の育児行動」「3.夫婦のコミュニケーション」「4.母親の情緒の不安定」「5.母子の社会的行動」の5因子が抽出された。

表1 因子分析結果

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
子どもが言おうとしていることを、最後まで聞いてあげた	0.81	-0.02	0.10	0.21	0.16
夢中になっていることは手を出さず最後までやらせた	0.64	0.02	0.06	0.17	0.13
子どもが自分を呼んだ時にはすぐ返事をしたり、対応した	0.60	0.02	-0.10	0.05	0.17
子どもと一緒に気持ち良くあいさつをした	0.50	-0.06	-0.29	0.12	0.46
子どもと一緒に楽しく遊んだ	0.29	0.11	0.02	-0.13	0.23
抱っこしたり、あやしたりして楽しくスキンシップをとった	0.24	0.07	0.02	-0.12	0.17
子どものことを、抱きしめたいほどかわいいと思う時があった	0.14	0.08	0.04	-0.13	0.11
お父さんと子どもと一緒に遊んだ	-0.10	0.89	0.52	-0.10	0.00
お父さんが子どもの世話やしつけをした	-0.10	0.81	0.64	-0.01	-0.02
お父さんが子どもと一緒に食事をした	0.19	0.60	0.14	0.04	0.09
子どものことについてお父さんと話した	0.07	0.37	0.85	-0.11	0.14
お父さんの言葉や行動から自分へのいたわりの気持ちを感じた	-0.04	0.45	0.74	-0.22	0.03
(自分自身が)イライラしてしまうことがあった	0.10	-0.03	-0.06	0.75	0.00
子どもの気持ちが分からないことがあった	0.10	-0.09	-0.31	0.56	-0.09
子育てについて、あせりや不安を感じた	0.10	0.00	-0.19	0.53	-0.04
つい感情的になり叱ってしまった	0.05	-0.07	-0.05	0.39	0.00
お父さんとけんかや気持ちの行き違いがあった	0.06	0.07	0.02	0.39	0.04
子どもと一緒に他の家族と交流した	0.15	0.00	0.00	0.01	0.66
お友だちと一緒に遊ばせた	0.20	-0.04	0.03	0.03	0.62
子どもと一緒に公共の場に出た	0.16	0.06	0.10	-0.12	0.56
今まで行ったことのない所に子どもを連れていった	0.04	0.11	0.06	-0.01	0.25
子どもに本を読んであげたり音楽を聴かせたりした	0.12	0.07	0.08	0.00	0.21

因子抽出法: 主因子法 ・ 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

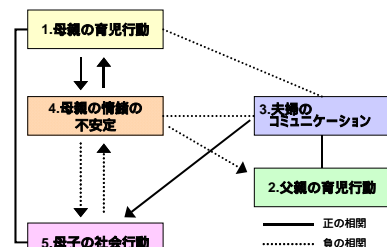
モデルの作成については、因子得点を月齢ごとに因子間の相関分析を行い、相関係数に基づいてモデルを作成した。

表2 子供の月齢別による因子間の相関分析結果

	1 3	1 4	3 4	3 5	1 5	2 3
1ヶ月	-0.23	0.22	-0.20	0.01	0.19	0.49
2ヶ月	-0.25	0.13	-0.18	0.10	0.24	0.39
3ヶ月	-0.33	0.13	-0.19	0.19	0.10	0.48
4ヶ月	-0.27	0.06	-0.16	0.21	0.18	0.31
5ヶ月	-0.09	0.21	-0.16	0.17	0.16	0.32
6ヶ月	-0.05	0.22	-0.22	0.16	0.09	0.40
7ヶ月	0.00	0.23	-0.14	0.16	0.13	0.41
8ヶ月	0.05	0.11	-0.21	0.14	0.10	0.50
9ヶ月	0.07	0.19	-0.17	0.14	0.18	0.59
10ヶ月	0.03	0.10	-0.20	0.15	0.06	0.52
11ヶ月	0.02	0.15	-0.20	0.12	0.15	0.52
12ヶ月	0.09	0.10	-0.07	0.21	0.10	0.43
13ヶ月	0.14	0.05	-0.14	0.20	0.00	0.53
14ヶ月	0.06	0.09	-0.37	0.21	0.08	0.49
15ヶ月	0.04	0.12	-0.16	0.25	0.14	0.58
16ヶ月	0.07	0.04	-0.27	0.11	0.21	0.50
17ヶ月	0.07	0.08	-0.18	0.06	0.19	0.62
18ヶ月	0.10	0.20	-0.24	0.02	0.30	0.49
19ヶ月	0.18	0.07	-0.25	0.06	0.17	0.48
20ヶ月	0.05	0.18	-0.28	-0.07	0.21	0.57
21ヶ月	0.18	0.11	-0.06	0.05	0.20	0.47
22ヶ月	0.11	0.22	-0.26	-0.05	0.15	0.57
23ヶ月	0.08	0.09	-0.26	-0.07	0.27	0.42
24ヶ月	0.18	0.06	-0.24	0.11	0.15	0.34

本研究では、因子間の因果関係を明らかにするために、当日間の因子間の相関分析に加え、当日の因子1と昨日の因子2の相関といった時間交叉相関分析を行った。モデル作成あたり当日間の相関係数より時間交叉の係数が高い場合は、後者を採用し、パス(矢印)を表示した。

図1 子育てモデル



全体の傾向を見たときに、子供の成長時期によって因子間の相関の程度が異なること明らかとなった。例えば「母親の育児行動」と「夫婦のコミュニケーション」は負の相関が見られるがこの傾向は生後4か月までに集中していることから夫婦のコミュニケーションが母親の育児の阻害要因になるのではなくコミュニケーションをとる余裕がないことによるものとも考えられる。また16ヶ月以降で「母親の育児行動」と「母子の社会的行動」に相関が見られるのは、子どもの外出する機会が増えたためと考えられる。

今後、この結果をもとに、同時に収集した自由記述データや母親の特性、子供の成長のなど、個々の家族の特性を明らかにし、より精緻化したモデルの構築を試みる。

(KUNIEDA Toshihiro, SOMA Junko)